

## 風しん流行に備えて

2013年の風疹大流行時に類似した風疹流行の兆候（兆し）が首都圏で確認され、「風疹ゼロプロジェクト」（日本産科婦人科学会も参加）より現状と注意点について緊急警告が発せられました。学会ホームページのリンクで、この「警告」を掲載しています。会員の皆様にはこれをご覧いただき、以下のご配慮をお願いします。

これまでも、日本産科婦人科学会は CRS（先天性風疹症候群）根絶のために必要な根本的対策を厚生労働省に要望してきました。

以下に産婦人科医としてできる対策と国家レベルで行うべき対策について説明します。前者については迅速に対応してください。尚、国家レベルでの対策については「風疹ゼロプロジェクト」と連携し本学会からも要望していきます。

### <産婦人科医としての対策>

#### ① 妊娠を希望する男女への MR ワクチン接種

特に、不妊治療前にはワクチン接種するか、または風疹、麻疹の抗体価を検査し抗体未保有あるいは低抗体価者にワクチンを接種する。

#### ② 妊娠初期検査で抗体未保有あるいは低抗体価産婦に対して産後に MR ワクチン接種する。

#### ③ 夫への MR ワクチン接種

妊娠中は夫にワクチン接種を推奨する。妻が妊娠中にワクチンを接種しなかった夫には産後でも接種を推奨する。

### <国家レベルでの対策>

#### ① 海外渡航前の 30-50 代男性への MR ワクチン接種

この数年の風疹流行は、抗体未保有の日本人男性が風疹流行国で感染し、国内に風疹ウイルスを持ち込むために発生する例が多い。したがって、ワクチン接種を受けていない男性に対しては渡航 2 週間以上前に MR ワクチン接種を推奨する。

#### ② 30-50 代男性への MR ワクチン接種

集団での抗体保有率が高率であればパンデミックは起こらない。日本の風疹抗体保有率を低下させている最大の集団は 30-50 代の男性であり、前回の大流行でも最大の感染集団であった。そこで、企業における健康診断などで風疹抗体価の測定、対象者へのワクチン接種を推奨すべきである。

#### ③ 高校生男女への MR ワクチン接種

ワクチン接種後長期間が経過すると、抗体価が低下することが HB ワクチンで詳細に示されている。また、妊婦初期検査での風疹抗体未保有あるいは低抗体価妊婦は、30 歳以下では、30 代以上の妊婦よりも高頻度である。比較的若

年妊婦での低抗体価あるいは未抗体保有対策としては高校生の時期に男女にブースターをかける（ワクチン接種する）のが望ましい。

日本産科婦人科学会周産期委員会委員長 金山尚裕